

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：チェンマイ県6郡の30～60歳の女性が、子宮頸がん・乳がんに対する知識を向上させ、定期的な検診を実施することにより早期発見・適切治療を促すことで、両がんによる死亡率を低下させる。 上位目標の達成度：子宮頸がん検診（細胞診）により異常が見つかった女性は第1期に132名、第2期に63名、乳がん自己触診により異常が見つかった女性は第1期に61名、第2期に48名おり、各々が精密検査を受けた。このうち子宮頸がんと診断されたのは第1期に2名、第2期に4名、乳がんと診断されたのは第1期に3名、第2期に16名で、全員が症状に合った治療を受けている。このことから当事業は、上位目標である両がんによる死亡率の低下に寄与していると考えられる。
(2) 事業内容	当事業では、3年間で6郡の対象地域での活動を計画しているが、以下は第2期の最終報告として、中間報告時以降の2012年4月1日から2012年11月1日までに2郡で実施した活動について記載する。 1. 地域のリーダーへ当事業の説明会 4月2日、第3期に活動予定であるハンドン郡にて説明会実施。（中間報告時には既に3回実施済みであり、今回と合わせて計4回実施した。）今後第3期を実施する上で、病院関係者からの理解を得ることができた。 2. 子宮頸がん・乳がん検診キャンペーン ドーイサケット郡にて計30回、サンサイ郡にて計24回の検診キャンペーンを、病院と当団体との共同で実施。（中間報告と合わせ、計画通り年間90回実施した。その他、病院が自主的に実施したキャンペーン12回と合わせると、年間102回のキャンペーンを実施したことになる。）生まれてから一度も検診を受けたことがなかった女性が、村のヘルスボランティアの声掛けや配布したパンフレットなどを見て初めて検診キャンペーンに来たケースも見受けられた。 3. モニタリングのための病院訪問 郡病院や郡保健局、ナコンピン病院（異常が見つかった患者の照会先）を6回訪問。キャンペーンが順調に行われているかや、検診受診者数を確認した。 4. 中間会議 5月17日に実施。2郡から28名の看護師と郡保健局長らが参加し、自主キャンペーンの積極的な開催や異常が見つかった患者の家庭訪問について話し合われた。 5. 年次会議 10月15日に実施。2郡から33名の看護師と郡保健局長、郡病院長らが参加し、事業終了後もどのように高い検診受診率を維持するかという自立発展性について議論した。

(3) 達成された効果	第2期(2011年11月2日から2012年11月1日まで)に2郡で達成された効果について記載する。 1. ドーイサケット郡では対象年齢の女性の56.29%に当たる8,290名が、サンサイ郡では82.53%に当たる18,129名が、2郡を合わせると72.00%に当たる26,419名の女性が検診キャンペーン等にて子宮頸がん検診を受診した。事業実施前の2009年はそれぞれ7.7%、8.1%であったことから、当事業により飛躍的に検診受診率が向上したことが分かる。 (申請書提出時からターゲット年齢の女性数が変更になっているため、今回は最新のチェンマイ保健局のデータから2郡のターゲット年齢の女性数をドーイサケット郡で14,727名、サンサイ郡で21,966名、計36,693名として計算した。) 2. ドーイサケット郡では対象年齢の女性の92.17%に当たる13,574名が、サンサイ郡では100.68%に当たる22,117名が、2郡を合わせると97.26%に当たる35,691名の女性が検診キャンペーン等にて乳がん自己触診法を学んだ。(村のヘルスボランティアが村の集会や個別の自宅訪問の際に直接教えたケースも含む。また、サンサイ郡で100%を超える数字となっているのは、村のヘルスボランティアが乳がん自己触診法を学んだ女性の数を二重カウントしている可能性を示唆しており、第3期には改善策を検討する必要がある。) 3. 子宮頸がん検診によりドーイサケット郡で19名、サンサイ郡で44名、計63名の女性に異常が見つかった。異常が見つかった女性は100%病院でその後精密検査を受け、サンサイ郡でステージIA1のがんが2名、ステージIB1のがんが2名見つかった。また、乳がん自己触診によりドーイサケット郡で31名、サンサイ郡で17名、計48名に異常が見つかり100%病院に照会された。そこでの精密検査の結果、16名にステージIの乳がんが見つかった。がんが見つかった女性は、その後病院にて治療を続けることになる。 上記の通り、両郡で子宮頸がん検診受診率50%、乳がん検診受診率70%、また検診の結果異常が見つかった女性が100%精密検査や治療を受けられるように各病院に照会するという事業目標を達成することができた。
(4) 持続発展性	1. 今後は看護師や特別研修を受けた村のヘルスボランティアらが主体となり、女性への啓蒙活動を行う村のヘルスボランティアを教育する予定である。また、各郡の看護師の中から1名責任者を選出し、各町病院管轄下での活動を定期的にモニタリングすることが最終会議で話し合われた。 2. 200名の村のヘルスボランティアを対象に、研修実施前と当

	事業終了間際に実施した知識力テストを見ると 平均 61% の正解率が 79% まで上昇している。村のヘルスボランティアは、今後もこれらの知識を生かし定期的に各家庭を訪問する中で、両がんの検診を受けるように女性住民に勧めることが期待される。 3. 今回検診キャンペーンに参加した女性住民は、保健教育を通じて定期的に検診を受診することの重要性を把握しているため、今後も自発的に検診を実施すると予想される。 4. 年 102 回という大規模な検診キャンペーンを実施することは困難だとしても、当事業を通じて検診技術を磨いた看護師が、それぞれの町病院で定期的に検診を実施し始めており、今後も継続される見通しである。(例：ドーイサケット郡の町病院では、当事業前までは女性住民が希望しても年 1 回の検診キャンペーン時しか子宮頸がん検診を実施しなかった。しかし事業終了後には、2 病院が毎週、1 病院が毎月定期的を実施するようになった。その他の町病院も年 2 回は検診キャンペーンを行うように調整中である。) 5. 移動検診車は第 3 期終了時にチェンマイ保健局に寄贈し、維持管理費を含めて全て保健局が管理することが先方との話し合いで決まっている。各郡は必要に応じて保健局から移動検診車を借りて、検診キャンペーン等で活用する。 6. 県保健局のデータによると、第 1 期の活動地であったサラピー郡とサンカンペン郡の今年度の検診受診率は、それぞれ 58%、42% であることから、当事業の自立発展性は高いと考えられる。(事業前はそれぞれ 17.5%、10.9%、事業実施中(第 1 期)はそれぞれ 50%、51% であった。)
--	--